

～令和 7 年度優秀映画鑑賞推進事業～

名画鑑賞会「時代を創ったあの映画」を開催します

「優秀映画鑑賞推進事業」は、優れた映画の鑑賞と映画保存への理解を深めてもらうことを目的に、国立映画アーカイブが日本各地の文化施設と連携して、所蔵映画フィルムの巡回上映を行う事業です。

今年度も日本の映画シーンを華やかに彩った名画を 9 月 25 日を皮切りに市内 3 施設で 7 作品を上映します。現役で活躍する名優の出演作から、小津安二郎監督の戦後の傑作、大林宣彦監督の 80 年代の名作まで、当時の感動そのままに大型スクリーンで楽しめます。

1. 上映スケジュール

施設	日程	開演	作品	上映時間
国立映画アーカイブ 相模原分館 (中央区高根 3-1-4)	9月25日(木)	11:00	Wの悲劇	109分
		14:30	ニンゲン合格	109分
	9月26日(金)	11:00	つぐみ	106分
		14:30	どついたるねん	110分
相模原南市民ホール (南区相模大野 5-31-1)	11月7日(金)	11:50	彼岸花	118分
		14:30	麦秋	125分
もみじホール城山 (緑区久保沢 2-26-2)	11月25日(火)	13:30	転校生	113分

2. 入場料・チケット購入方法

○入場料

1 作品券：500 円、2 作品セット券：900 円（全席自由、各回入れ替え制）

※ 2 作品セット券は、同会場の別の上映作品（別日程含む）のみ組み合わせ可。

○購入方法

8 月 1 日（金）午前 10 時より下記方法で販売（インターネットは 1 作品券のみ取扱い）

※ 各施設とも定員に満たなかった場合は当日券の販売もあり

【電 話 予 約】チケット Move （042-742-9999）

【インターネット】チケットぴあ（<https://t.pia.jp/>）

チケットムーヴ.net（<http://move-ticket.pia.jp/>）

【窓 口 販 売】チケット Move 窓口

※ 南市民ホール、もみじホール城山ではそれぞれの会場の上映作品を販売

【問合せ先】
文化振興課
直通電話 042(769)8202

作品紹介



Wの悲劇 (1984年／澤井信一郎／109分)

デビュー作『野生の証明』で13歳にして一躍トップアイドルになった薬師丸ひろ子が、感情の微妙な動きまで熟視した長回しによる演出のなかで、大人の役者への新境地を開いた作品。劇団の若い研究生が、看板女優からスキャンダルの身代わりを引き受けたことから、舞台「Wの悲劇」の主役の座を得る。夏樹静子の原作を劇中劇にし、薬師丸ひろ子とヒロイン、ヒロインが演じる劇中劇の少女の三者を重層化した脚本の妙や、蜷川幸雄をはじめ多数の演劇人や芸能リポーターの梨元勝らの登場など、虚構と現実を融合させた濃密な演出が高く評価された。監督：澤井信一郎、出演：薬師丸ひろ子、世良公則、三田佳子、高木美保ほか



ニンゲン合格 (1999年／黒沢清／109分)

『ドライブ・マイ・カー』で、全米批評家協会賞主演男優賞に輝くなど、世界的にも注目を集める西島秀俊の27歳のときの主演作。西島演じる豊は、中学生の時に遭った交通事故による10年間の昏睡状態から奇跡的に目覚める。しかし、家族は離散しており、豊はもう一度みんなで暮らすことを求め、家族で開いていたポニー牧場を再建しようとする。スリラーやアクションの斬新な演出が評価されていた黒沢清監督による、初の本格的な家族ドラマ。人間がそこに存在していること自体の不思議さと不気味さにまで立ち戻り、家族の意味を根源的に問い直した一本。監督：黒沢清、出演：西島秀俊、リリィ、菅田俊、麻生久美子ほか



つぐみ (1990年／市川準／106分)

吉本ばななの小説『TUGUMI』の映画化で、牧瀬里穂が同年の映画デビュー作『東京上空いらっしやいませ』とあわせて、各映画賞の新人賞を独占した思春期映画の秀作。老舗旅館を営む両親のもとに生まれたつぐみは、病弱な体質ゆえに甘やかされて育ち、その傍若無人ぶりは家族を困らせていた。従姉妹のまりあ、姉の陽子とともに過ごすことになった18歳の夏、つぐみはある出来事をきっかけに恭一という青年と出会う。まりあ役の中嶋朋子、恭一役の真田広之のほか、出演する個性豊かな俳優陣のなかでも、不機嫌な表情が印象的なヒロインを演じた牧瀬里穂の強烈な存在感が光る。監督：市川準、出演：牧瀬里穂、中嶋朋子、真田広之、白島靖代ほか



どついたるねん (1989年／阪本順治／110分)

「浪速のロッキー」との異名をとったプロボクサーの赤井英和が、映画初主演した作品。プロボクサーの安達は試合で頭部に瀕死の重傷を負い、ドクターストップにより引退に追い込まれる。リングへの執着が捨てられない安達は、割り切って指導者になることもできず、無謀にも選手復帰を目指す。本作で監督デビューした阪本順治監督は、赤井の飾らない魅力と、コーチを演じた原田芳雄の緩急自在の演技を掛け合わせ、唯一無二のボクシング映画を世に送り出した。赤井の実際の現役最後の対戦相手である大和田正春も友情出演。監督：阪本順治、出演：赤井英和、相楽晴子、磨赤兒、原田芳雄ほか



彼岸花 (1958年／小津安二郎／118分)

娘が勝手に決めてきた結婚相手に腹を立てる頑固な父親の姿をユーモラスに描く、小津安二郎監督初めてのカラー作品。ドラマチックな展開を極力排除し、さりげない会話のやりとりの中に人間のエゴを垣間みせるこの監督特有の手法が、あでやかな色彩とともに、見るものの心に染み込んでくる。母娘を演じた浪花千栄子と山本富士子による京都弁の掛け合いもまた楽しい。里見弴は小津監督の敬愛する小説家で、原作は小津監督の映画化を予定して書き下ろされたものである。「キネマ旬報」ベストテン第3位。監督：小津安二郎、出演：佐分利信、田中絹代、有馬稲子、桑野みゆきほか



麦秋 (1951年／小津安二郎／125分)

「ストーリーよりも輪廻とか無情を描きたいと思った」とは小津安二郎の監督自身の言葉である。娘の結婚と、父母の郷里への隠棲でゆるやかに崩壊していく大家族、その別れの過程が小津監督独特の豊かなユーモアと厳密なスタイルで、あたかも自然のように描かれている点に特徴がある。笠智衆、三宅邦子、菅井一郎、東山千栄子らがはまり役とも言える人物造型を見事に演じるとともに、杉村春子は息子の再婚相手に原節子を迎え狂喜する母親の姿を、絶妙な呼吸と身のこなしで表現してみせた。「キネマ旬報」ベストテン第1位。監督：小津安二郎、出演：原節子、笠智衆、三宅邦子、菅井一郎ほか



転校生 (1981年／大林宣彦／113分)

舞台は尾道の中学校。夏のある日、ワンパク少年斉藤一夫のクラスに一人の転校生がやってきた。名前は斉藤一美といい、一夫と一字違いだった。ふとした弾みで寺の階段から落ちそうになった一美を救おうとして、一夫も一緒に転がり落ちる。気がつくと、一夫は一美に、一美は一夫になっていた。二人は入れ違ってしまったのだ。監督の大林宣彦は思春期の、少女のなかの少年、少年のなかの少女が重なりあう一瞬のゆらぎを、ファンタジー形式のなかで見事に映像化した作品。この後に製作される『時をかける少女』『さびしんぼう』とともに「尾道三部作」と呼ばれている。監督：大林宣彦、出演：尾美としのり、小林聡美、佐藤允、樹木希林ほか

主催：相模原市優秀映画鑑賞推進事業実行委員会／国立映画アーカイブ
特別協力：文化庁／一般社団法人日本映画製作者連盟／全国興行生活衛生同業組合
連合会／松竹株式会社／東宝株式会社／東映株式会社／株式会社KADOKAWA
問合せ先：相模原市優秀映画鑑賞推進事業実行委員会（文化振興課：042-769-8202）

